



観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



鈴木 裕氏

観光施設メディアラボとは

公益社団法人国際観光施設協会の情報発信窓口であります。当協会は、「国際観光に技術で貢献する」という理念のもとに各界より参集した企業から構成されています。日本において観光に技術の観点から貢献する公益社団法人は唯一当協会だけです。会員は建築、構造、設備、インテリア、造園の各種設計事務所、スーパーゼネコンをはじめとする総合建設業、設備施工業者、内装施工業者、各種メーカー、各種コンサルタント等の日本を代表するものづくりに関連する企業です。当協会は同業者の団体でなく、同好の会でなく、ましてや政治的団体でもなく、偏に「観光に自社の持つ技術で活躍したい」という純粋な動機のもとに集まった会員によるフラットで未来的な組織であります。

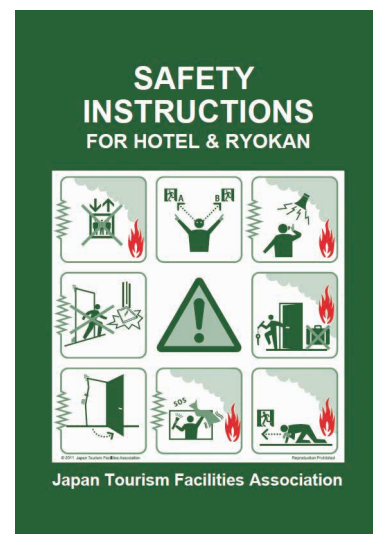
観光立国から地方創生へ

さて、インバウンドは2000万人以上を向う勢いとまさに観光立国全盛の勢いであり、この勢いを国内観光振興につなげて地方創生を成し遂げねばな

らないと思います。少子高齢化で経済成長が困難となる時代に、成長余地の大きな観光を観光産業としてとらえマーケティングを行ないビジネスとして成立させねばなりません。観光にとって重要な、風景、景観、町並み、建築、家具、什器、備品はすべて装置であり観光は装置産業であるといっても過言ではないと思います。「観光は国の光を観ること」の原点に戻り「地域の光」とは何かを真剣に問い直しコンセプトを立て、それに基づいた風景から建築、家具に至るまでの装置の見直しを図って個性ある地方を創生して行くべきと考えます。

観光CSV活動で社会のお役に立つ

当協会はそうしたお役に立つべくさまざまな活動を行なっています。さまざまな能力をもつ会員の力を結集するためには、協会もよし、会員もよしの活動テーマを設定して活動することが有効です。まさにCSV（Creating Shared Value）であります。



2

1. 旅館観光地分科会では全国の観光地活性化に向け「滞在して楽しい観光地づくりとは＝豊かなまちをつくること」を理念とし、YouTubeに映像「旅するところ」を配信、また観光関係者及び一般の方々を対象としたセミナー「たびむすび」を開催しています。

2. ホテル分科会では木材活用による地産池消経済再生の模索、また災害列島日本での「ホテル旅館の安心安全」への提言を行ないます。



1

第一回 観光施設メディアラボとは

公益社団法人国際観光施設協会会長
株式会社観光企画設計社社長

鈴木 裕 氏

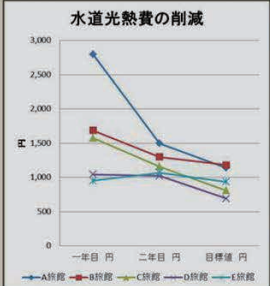
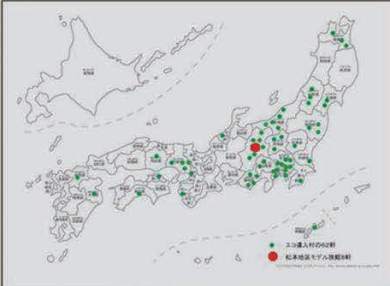
3. インテリア分科会では新しいインテリアに生かしたい伝統技術とデザインに注目し日本ブランド構築への手がかりを模索します。



3

「エコ・小」ってなに？

「エコ・小」とは温泉旅館を小さなエネルギーで美しく、エコロジカルに運営し生産性を上げる運動です。



平成 25 年度
地球温暖化防止活動
環境大臣賞
Minister of the Environment
2013.12.4
対策活動実践・普及部門
公益社団法人国際観光施設協会 贈

第1段階
ムダをみつけて、なくす。

第2段階
毎日の使用量を見える化し、客数と気温などの関係を社員全員が意識し、カイゼン工夫を始める。

第3段階
風や緑、水や温泉さらに地域の産品など土地の力を生かし、建物の通風断熱を高め、その土地特有の生活の知恵を美しい文化に高める。

また、4. エコ・小委員会では「小さなエネルギーによるエコロジカルな美しい生活」を地域に取り戻し、本来あるべき土地の力を再生するという目的のもとにエネルギーの正しい使い方を伝え、生産性の向上を通して地方創生に寄与しています。5. ホテルズ実行委員会では毎年国際ホテル・レストラン・ショーに主催者団体の一つとして出展し、一年間のCSV活動のまとめとして展示情報発信を行ないます。新設されるホスピタリティーデザイン東京エリアの企画組織の中核メンバーとして活動しています。

4

観光に関する情報を技術の見地から発信

当協会は技術者の集団でありますので、4つの分科会、委員会のテーマに沿ったCSV活動について「技術者としての見地」から情報発信をしていきます。それでは、簡潔な文章とグラフィックという編集方針に基づき「観光施設メディアラボ」を始めさせていただきます。



5